

検討会のスケジュールと内容

第1回検討会の概要

検討会のスケジュールと内容

令和8年7月頃にかけて3回開催してとりまとめを行い、8月に報告書を公表予定。

第1回（令和8年2月13日）

- 開催趣旨
- 1週間から数か月先の情報の現状
- 情報の高度化を進める背景
- 1週間から数か月先の情報に対する社会的ニーズ
- 情報の高度化の方向性

今回議論する内容

第2回（令和8年5月22日）

- 第1回検討会の概要
- 1週間から数か月先の情報に対する社会的ニーズ（第1回からの続き）
- 社会的ニーズを踏まえた情報の高度化の考え方
- 気象庁が提供する情報の具体案
- 検討会報告書 骨子案

第3回（令和8年7月中旬～下旬）（案）

- 検討会報告書案について

第1回検討会における主なご意見（概要）

- 第1回検討会では、1週間から数か月先の情報の現状や社会的ニーズを確認し、情報の高度化の方向性（案）に賛成していただいた。
- 高度化実現に向けて、各業界のニーズと難易度、気象庁と民間との役割分担などの整理や、ユーザーの利便性をさらに高めるためのデータ提供の必要性が示された。

第1回検討会で示した情報の高度化の方向性（案）

2週間先まで

- 顕著現象について、早期注意情報に繋がる情報を提供し、より早期の防災対策を支援
- 2週間先まで日別で均質な情報を提供し、現状の週間天気予報や早期注意情報とその先の情報のギャップを解消

1か月先まで

- 気温、降水量、日照時間、降雪量の予報期間を、精度に応じて細分化
- かなりの高温・低温の可能性について、1か月先まで提供
- 実況と実況からの変化を含む今後の見通しの解説を充実

3か月先まで

- 暑夏・暖冬などの「高い」「低い」気温について、確度に応じたメリハリのある確率で気温を予報
- 実況と実況からの変化や気温の変動を含む今後の見通しの解説を新たに開始

予測資料

- 新たな情報に対応するガイダンスや数値予報天気図等を提供・拡充

第1回検討会における主なご意見（概要）

情報の高度化、解説の充実について

- 予報精度の向上を期待。
- 地球温暖化の影響で高温側の予測で高い確率が出やすくなっている状況を踏まえ、近年の状況に比べてどうかといった記憶に訴える情報の出し方が大事。
- 平年値に加え、過去数年間など、別の基準による情報提供の工夫も考えられる。
- 平年差だけではなく、具体的な数値も示せるとよい。
- アンサンブル予報を活用した気温の変動度の情報など、解説も含めた発信が重要。
- 情報の背景となる解説の充実を期待。

情報の不確実性や、気象庁と民間気象事業者の連携について

- 長期予報は、備えに資する情報として位置付けることが重要。
- リードタイムが延びるほど不確実性が大きくなるが、情報があるのとないのでは全然違うので、気象庁も民間気象事業者も積極的に情報発信を進められるとよい。

第1回検討会における主なご意見（概要）

データの利活用について

- ダウンスケーリング等による面的な情報の充実など、提供するデータの拡充が必要。
- より利用しやすい形でのデータ提供の仕組みがあるとよい。
- アンサンブルメンバーの増加を踏まえ、閾値を超える確率情報の活用ができるとうい。
- 予報の振り返りの情報を専門家には提供してほしい。

その他、検討の進め方などについて

- 誰に向けた情報かを整理する必要がある。
- 一般利用者の視点の取り込みや、気象庁と民間の役割分担の整理が必要。
- 各業界のニーズについて、実現までに要する時間や難易度を整理し、共通項目と業界専門項目に仕分け、気象庁が取り組むべき共通項目のターゲットをどこに置くかを議論するとよい。